

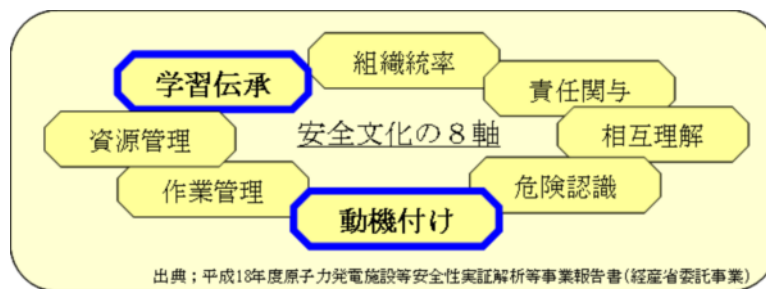
石油化学工業協会の保安・安全への取り組み

2012 年 11 月 6 日

石油化学工業協会

1. 基本的考え方

- 会員各社の徹底した取り組みが基本
- 石化協としては基盤としての安全文化の強化に重点（下図  参照）



2. 現状

学習伝承

- (1) 事故情報の共有化
些細な事故でも、その都度背景を含めて会員間で情報を共有。
- (2) 経験の共有化
コンビナート現場の管理者に「事故の語り部」から経験、思いを伝承。
(事故事例巡回セミナー年2回、各地100人規模で開催)
- (3) 相互啓発
 - ①保安推進会議
1日かけて各社の保安対策の相互啓発を行なう。
(毎年10月、約200名参加)
 - ②保安研究会
プロセスの異なるプラントごとに現場管理者が相互啓発。
(エチレン、BTX等7研究会、延べ年間17回、約350名が参加)

動機付け

- (1) 保安表彰
忘れられがちな現場の職長クラスを対象に会長が表彰。
(毎年15名程度)
- (2) 学会との連携
井の中の蛙とならないよう、安全工学会、化学工学会等での発表、学会誌投稿等を行い、併せてモチベーションの向上を図る。

3. 対策強化

最近の事故発生状況に鑑み、保安・衛生委員会にて集中的に議論を重ね、

- (1) 危険認識能力強化の演習 ; 7 保安研究会毎に実施
 - (2) 共有事故情報の深化(本質原因の明確化) ; WGで事前スクリーニング
 - (3) 各種研究会等を通じた Know-Why の認識強化 ; 事例発表、優秀表彰等を企画
 - (4) 経営トップによる保安懇談会の開催 ; 本年 2 回の開催を計画
- に取り組む事とした。

以 上